

中経 論壇

経営支援NPOクラブ理事
中谷 兼武



新型コロナウイルスの感染が治まらず、3度目の緊急事態宣言が発令されている。新型コロナウイルスの感染期間中に、多くのカタカナ単語が使用されてきた。例えば、クラスター、テレワーク、リモートワーク、オンライン会議、リアル、エッセンシャルワーカーなどである。ものづくりが長く携わってきた筆者は、ブルーワーカーは知っていたが、「エッセンシャルワーカー」は初めて知る単語であった。

早速、調べてみると、エッセンシャルワーカーは、生活維持に欠かせない仕事を担っている方々に対する、感謝や尊敬の念を込めた呼称であり、この言葉は欧米でも使用されていることである。コロナ下において、医療・福祉、農業、小売り・販売、運輸、通信、公共交通機関などに従事する人を指しており、緊急事態宣言下では、逼迫(ひっぱく)する医療・福祉の現場で働く人や通信販売の輸送配達の人たちへの感謝が多く報道されている。

筆者は、製造企業経営にも携わったことから、中小製造

「エッセンシャルインダストリー」としての製造業

企業経営者育成のための意見交換会で「われわれに、若手経営者との意見交換の場を設け、経営・技術などの相談に依っている。製造業は5千年以上の歴史のある産業であり、日本のものづくりに不可欠な産業であるが、一方、3Kの代表業種でもあることから、製造企業経営者は敬遠されがちである。今回、エッセンシャルワーカーについて調べながら、わが国の重工業産業を支えてきた製造業を、「エッセンシャルインダストリー」と呼称し、世間一般の認識を変えたい。今後「エッセンシャル企業」への呼称変更を期待している。

早速、若手経営者

エッセンシャルワーカーがクローズアップされている新型コロナウイルスの終息を願いつつ、エッセンシャルインダストリーの誇りをあらためて感じた昨今である。

代表としての自信と誇りを